

# 学際的な研究とスタートアップ企業との産学連携

吉田光男

筑波大学 システム情報工学研究科

ceekz@mibel.cs.tsukuba.ac.jp

3年前の今日、「自然言語処理における企業と大学と学生の関係」というワークショップが開催され<sup>1</sup>，そこで「起業した学生が考えるインターンシップ」と題した発表を行った<sup>2</sup>。当時は博士前期課程の2年生であったが，博士後期課程に進学し，満足のいく形でインターンシップに参加することができた。原稿に書いたことが（ある程度）実現できたのである。新たな環境で，来年度以降も自然言語処理研究に携わる見込みであり，本原稿に書いたことが3年後に（ある程度）実現できていることを期待しながら，自然言語処理に対する期待と自身の抱負を述べようと思う。

まず，ほかの分野の研究者と共同で研究を行い，学際的な研究が行われることに期待したい。最近では，ウェブのデータを対象とした研究が盛んに行われ，日々，自然言語処理研究の対象範囲が広がっているように感じる。一方，それらの研究が，複数の研究チーム混合で行われるケースはまだ少ないように思う。ウェブのデータを対象とする研究は，自然言語処理のほかにも，情報検索やデータベースなど様々な分野で行われている。研究の分野を横断し，学際的に研究が行われるようになれば，新たな気付きを得る機会も増えるであろう。学際的な研究に，何かワクワクするので，私はほかの分野の方との共同研究を積極的に進めていきたい。ただし，このような共同研究では，それぞれが“片手間”で共同作業を実施することがしばしばあり，途中で空中分解してしまうことも多いだろうと思う。この問題にどのように対処すれば良いだろうか。

学際的な研究のほかに，スタートアップ企業との産学連携が進めば面白いと思う。工学研究は実用化されてこそ活きるものであり，産学連携は常々意識されているのではないかと思う。近年では，自然言語処理研究の知見が，企業での製品開発に生かされる機会も増えている。スタートアップ企業は，短期間で急速に成長することを目指し，利用者からの絶え間ないフィードバックを得ながら，日々，自社サービスの改善を行っている。この改善サイクルに研究者も参画することを期待したい。研究は試行錯誤の連続であり，日々の改善を繰り返しながら結果につなげるものであり，実のところ，スタートアップ企業の改善サイクルと相性が良いのではないかと思う。私は，何らかのアプリケーション（ウェブサービス）を構想した上で，それを構成する技術の実現を研究として取り組むのが楽しいと感じており，実現したいアプリケーションの構想を同じくできるスタートアップ企業と共同で研究したいと思う。ただし，研究者とスタートアップ企業との（第三者に見える）達成目標は異なる。研究者は論文としての成果を残せるかであるだろうし，スタートアップ企業は利益としての成果を残せるかであるだろうと思う。これらの差異を踏まえて，共同で研究できるだろうか。

---

<sup>1</sup><http://nlp.cs.nyu.edu/gengo2011ws/>

<sup>2</sup>インターンシップに期待することを原稿に残したものの，発表スライドを見る限り，当日は自然言語処理に期待することを述べたようである。